

演習授業での「聞き書きマップ」の活用（子どもの安全に向けた一実践例）

松原英世（甲南大学法学部）

○ 専門

- 刑事法（刑法、刑事訴訟法、刑事政策／犯罪学）
- 刑事政策 = 犯罪対策のあり方
- 犯罪学 = 犯罪現象の理解／説明、犯罪予防

○ 基礎演習

- 1年生の必修科目（前期2単位）
- 2023年度は17名が受講
- 子どもの安全（事故予防）は法学部ではあまり扱われないトピック

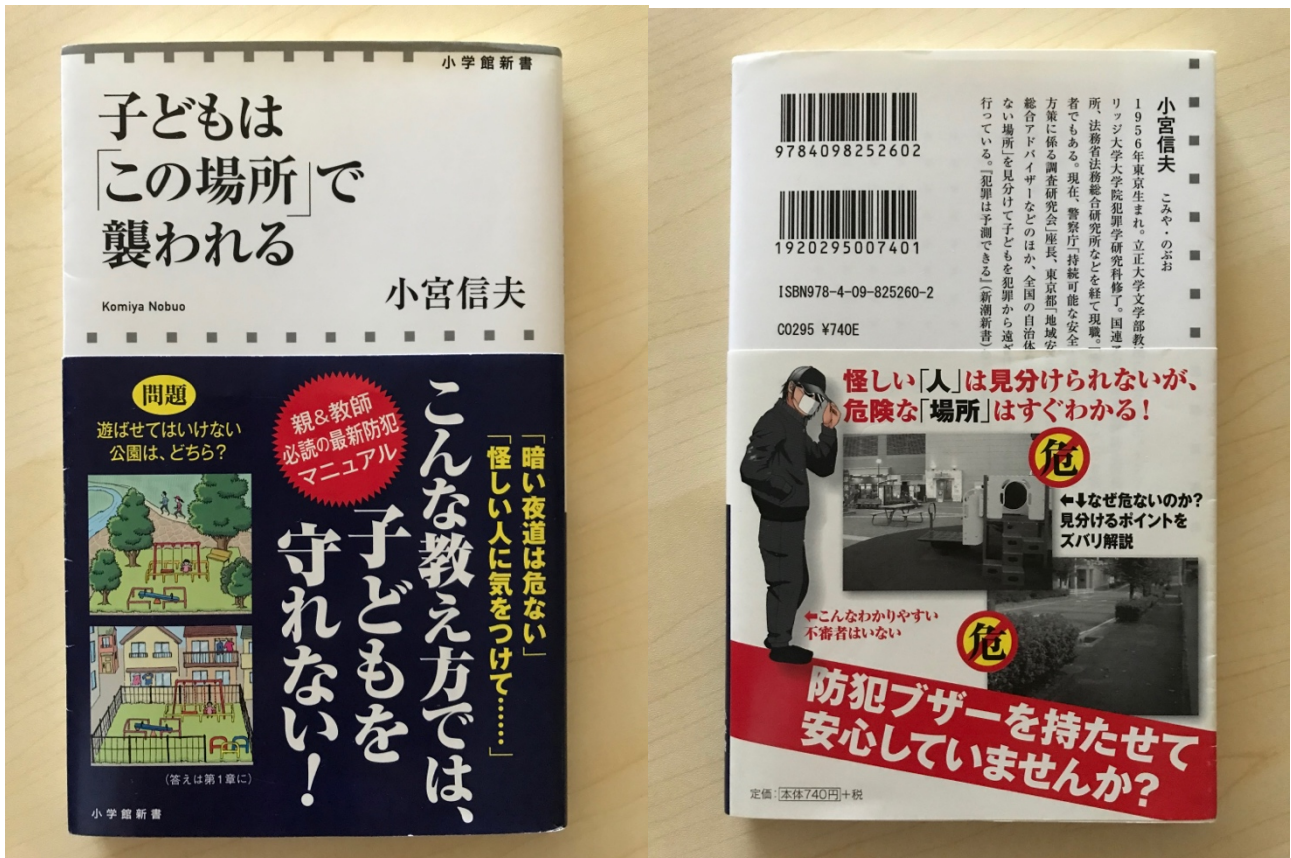
▽ シラバス

授業概要	本を読み、そこで得た知識を使って調査し、その成果を報告する。
到達目標	(1) 科目における到達目標 大学での学びへの導入として、資料の読み方、調査の仕方、プレゼンの仕方を身につける。 (2) カリキュラム・マップにおける到達目標 A. 法学・政治学を学ぶ上で必要な知識や考え方を修得し、法学・政治学の全体像を把握する。 B. 法学・政治学の基礎知識や理論を修得する。 E. 実践的かつ実務的な学修を行い、法曹等の専門職をはじめ、社会の中で実践的に活用できる能力を培う。 F. 多様な視点から物事を捉える能力を涵養するために、国際的な知識を身につけ、法学・政治学に隣接する学問の知識や理論を修得する。 G. 問題を自ら発見し、情報を収集・分析して論理的思考に基づいて問題を解決に導く能力を身につける。 H. 社会人に必要な情報処理、コミュニケーション、プレゼンテーションのためのスキルや能力を身につける。
授業方法	演習形式で行う(対面のみ)。詳細は「授業構成」のとおりである。
アクティブ・ラーニングの内容	課題解決学習/体験学習/調査学習/グループディスカッション/グループワーク/実習、フィールドワーク
準備学習	次回の授業までにしておくべきことを適宜指示する。なお、1回の講義につき1時間半程度の予習・復習が必要となる。
必要となる知識	特になし。
授業構成	1. 共通講義 2. 共通講義 3. 図書館ガイダンス(04/25:オンデマンド) 4. オリエンテーション(自己紹介、班分け、ガイダンス) 5. 前提となる知識の獲得(小宮(2015)1章、2章) 6. 前提となる知識の獲得(小宮(2015)3章、4章) 7. 前提となる知識の獲得(小宮(2015)5章&講義) 8. 法学会総会(05/30) 9. フィールドワーク&グループワーク 10. フィールドワーク&グループワーク 11. フィールドワーク&グループワーク 12. 成果報告(1班、2班) 13. 成果報告(3班、4班) 14. 成果報告(5班) 15. まとめ ※ 「図書館ガイダンス」、「法学会総会」の実施日は変更される可能性がある。
実務経験のある教員又は実践的教育による授業科目	該当しない
定期試験	実施しない
成績評価	受講態度、課題への取組み、成果報告の内容で評価する。 なお、課題については、成果報告のさいに口頭にてフィードバックをおこなう。
教科書	小宮信夫(2015)『子どもは「この場所」で襲われる』小学館 (教科書を購入する必要はありません。)
参考書・資料	適宜案内する。
授業関連事項	
担当者から一言	頑張っていきましょう!
その他	
ホームページタイトル	
URL	

→ 吉川さんをゲストスピーカーとして招聘(第10回:06/13)

○ 環境犯罪学

▽ 小宮信夫 (2015) 『子どもは「この場所」で襲われる』小学館



… 本書は、環境犯罪学の視点から、子どもの犯罪被害をいかに防ぐかについて、分かりやすく、かつ、詳細に論じている。

- 行為者 (なぜそういうことをするのか?) から行為環境 (なぜそういうことが起こるのか?) へ
- コンビに入ったら店員がいなかった!
- 犯罪がまさに発生する環境 (場所/状況) を説明
- 犯罪を遂行する機会がなければ犯罪は起こりえない
- = 犯罪機会論
- 客観的な状況を変えることで犯罪 (の機会) を減らす

▽ アメリカの公園



公園



道路

公園



道路

公園



道路

X
X
X

→ 客観的な状況を変えることで事故（の機会）を減らす



○ どうやって危険（犯罪や事故の機会）を知るのか？

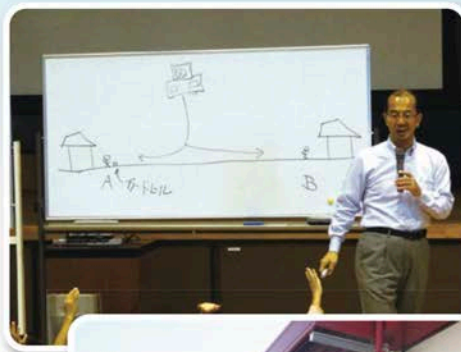
→ 地域安全マップ

= どこが危険かを知っておくためのツール

= 危険な場所を察知することができるようになるためのツール

危険を予測し回避する能力を育てる

地域安全マップづくり 指導マニュアル



→ 聞き書きマップ

= 原田豊編著 (2017) 『「聞き書きマップ」で子どもを守る：科学が支える子どもの被害防止入門』
現代人文社

= ①GPS 受信機、②IC レコーダー、③デジタルカメラ (すなわち、スマホ)

『聞き書きマップ』で 子どもを守る

科学が支える子どもの被害防止入門

原田 豊 編著



現代人文社

安全マップ
作りって大変
を
解決!

歩いた経路・写真の撮影地点を自動的に記録
して学校や地域での「まちあるき」の記録を手軽
に作れるソフトウェア

各地での実施事例を紹介し、学術的基盤から具体的な使い方、
防犯以外のいろいろな活用方法まで一冊でわかる入門書。

- 「聞き書きマップ」アプリは、アップル版は App Store から、Android 版は Google Play ストアからダウンロード可
- その操作方法については、以下のサイト、並びに、別添の資料（iPhone 版アプリ使用ガイド（簡易版））を参照

http://www.skre.jp/nc2/index.php?key=jo46ph41v-15#_15

○ フィールドワークの成果（学生の感想）

- テキスト『子どもは「この場所」で襲われる』を読み「聞き書きマップ」を作成したことについて、その「感想（そうした経験をとおして感じたこと、新たに得た知見等）」を 800 字程度でまとめてください。
- ▽ 危険は人で判断するのではなく、場所で判断すること、「見えにくく、入りやすい」場所を避けることが重要であることが分かった。
- ▽ フィールドワークをしていく中で、一番に感じたことは、普段はこのような場所（見えにくく、入りやすい場所）を見ても何とも思っていなかったことです。
- ▽ 「聞き書きマップ」を制作する際、実際に甲南大学周辺を歩き、危険な場所を探しに行ったが、普段はそのようなことを意識して町を歩いたことがなかったため、いつもとは見える景色がとても違った。
- ▽ この経験を通して感じたことは、危険箇所は様々な場所に存在しており大学生の視点と幼児の視点とでは違いが多いことだ。
- ▽ 地域安全マップを作る過程は机に向かって説明を聞いているだけよりも、記憶に残りやすく効果的だと思った。
- ▽ 私は安全・犯罪対策の教育を見直すべきだと感じた。 …〈中略〉… 「なぜ守らないといけない

のか？」や「なぜ危険なのか？」ということが分かっていない子どもがほとんどだろう。…〈中略〉… 実際に危険な場所に行って説明することは、いい経験となって教育効果が高いのではないだろうか。

- ▽ 犯罪機会論の知識があると、歩きなれた場所や初めて行く場所でも危険を避けることができる。どの世代の地域住民でも取り組むことができ、誰でも実践できるので活用しやすいと思った。
- ▽ 普段何気なく歩いている大学周辺を調査した。すると、普段は何も思わない道だが、目線を変えるとどんどん危険場所が出てきた。街灯が少なすぎる道や、日中は店で賑わう商店街も暗くなるにつれて人通りが少なくなり、危険な場所と変わった。このように目線や見方など変えることで、こんなにも身近に危険は潜んでいるんだと改めて知ることができた。実際に街中を歩くことで、調べるよりも頭に入りやすく、体験することが大事なんだと感じた。
- ▽ 整備されている公園が多いため、腐敗した遊具はないものの、安全性についてはあまり考えられていなかった。例えば、高さのある遊具の地面にマットや人工芝を敷いていないため、落下した際に大怪我に繋がってしまう恐れがある。また、私自身が園児や児童の頃にも行っていたような、本来の用途とは異なった危険な遊具の使い方を、フィールドワーク中に度々見かけた。
- ▽ この本を読むまでは実際に私も犯罪原因論が正しく、犯罪を犯すものの思考がおかしいのだと考えていた。しかし、この本を読んでからは、犯罪は、起こりやすい場所で起こるべくして起こってしまっているのだと感じました。

○ 聞き書きマップはいろいろなことに活用できる

- 防災マップの作成
- 介護への活用
- 旅の記録